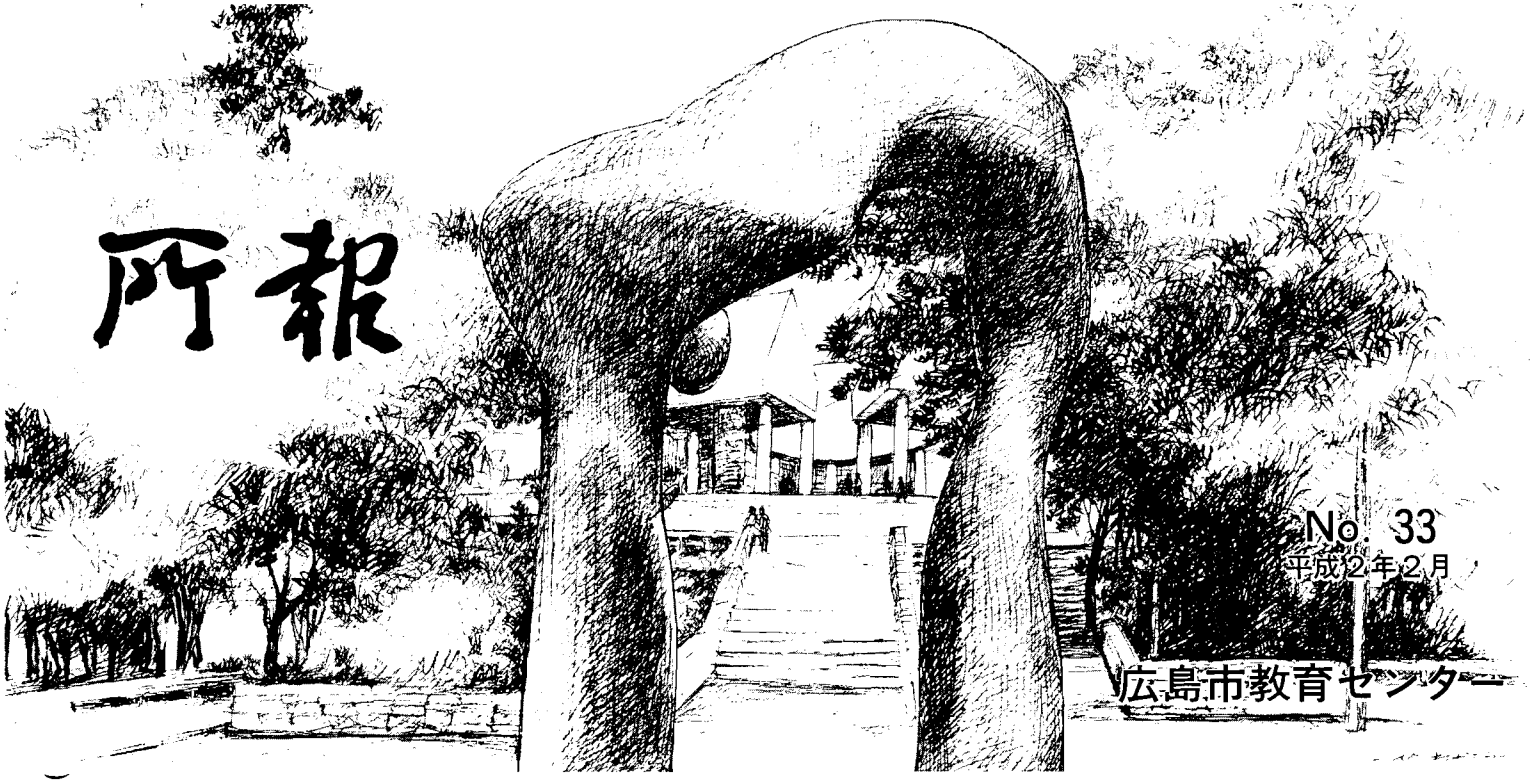


個を生かす

広島大学教育学部教授　吉森　護

最近は、現代っ子のことを揶揄(やゆ)して「ぎょうざっ子」と言うのだそうである。ぎょうざは、薄い皮の中に中味が一杯詰まっている。蒸したり油いためする時皮が破れたら収拾がつかなくなる、皿の上にズラリと同じ形のものが並んでいる。現代っ子は、このぎょうざのように物知りで頭の中には知識が一杯詰まっているが、忍耐力が乏しくちょっとしたことで対処不能のパニックに陥り、しかも一人一人個性が皆同じようだ、ということに由来しているらしい。うまいネーミングだと思う。多くの教師から、今の子は断片的には大人顔負けの物知りだが、ちょっとした困難や失敗ですぐ音をあげ挫折してしまう、表情が乏しく能面のような子が多く、しかもその顔つきがよく似ている、ということを聞いていたからだ。忍耐力がないことと個性が乏しいことが気になる。

言うまでもなく、子どもたちは一人一人みな違う。それぞれの子は他と違う固有な可能性をもって生まれている。それを見出し、引き出して実現するのが教育である。その場合、すべての子どもに同じ知識・技能を与えることもできるし、また、一人一人異なる学力を身に付けさせることもできる。子どもたちには社会人としての共通性と個人としての固有性を育まなければならない。どちらも大切である。しかし、今、わが国の学校教育や家庭教育において強調されなければならないのは個性化、すなわち「個を生かす」方であろう。なぜなら、横並びの画一的人間による大量生産の時代が過ぎ去り、個性的・独創的社会人が求められている時代であり、家庭や学校において画一的に教育されすぎている現実があるからである。

子どもたちは能力の面からだけ見ても、スポーツが得意な子、音感の優れた子、絵がうまくデザインセンスのある子、数学的能力の秀でた子、言語的能力のある子、などさまざまである。そのいずれも将来のその個人の生き方と幸福の基本になるものである。親や教師は、子ども一人一人を見つめ、その特徴を見つけ、その個性に応じて教育し、個を生かすことに傾注しなければならない。

編集・発行／広島市教育センター　〒732 広島市東区牛田新町一丁目17番1号　☎(082)223－3563

特集／個性を生かす教育

個性をとらえる

――共同研究「個性を生かす学習指導の在り方」(第1年次)から――

はじめに

臨時教育審議会はその答申の中で「個性重視の原則」を示し、教育改革の基本理念とした。元来、教育というものが、子ども一人一人を大切にし、本人のもっている能力・個性の伸長を図っていくことにあるとすれば、個性重視の原則はあまりにも当然すぎる提言といえる。しかし、今日改めてこの考え方が出されなければならないほど、我が国の教育のもつ画一性、硬直性は根深く、この克服が困難であることを自覚する必要があるのではないだろうか。

一方、技術革新と国際化が急速に進む中で、これまでの知識・技能の習得に中心をおいた教育では、創造し、表現する能力が育たないのではないかという危機感が、教育界のみならず、広く社会全体にある。また、創造性は個性と密接な関係があり、個性が生かされてはじめて、創造性が育つものである。これらが、今日、個性尊重の教育が強調される所以である。

個性を生かす

授業をすすめる実際場面においては、子どもが個性を発揮すればするほど、指導はすすめにくくなるとよくいわれる。ある子どもの突拍子もない発言が、教師を戸惑わせたり、予定された授業の流れを中断させたりすることがある。この時、教師がその発言を無視したり、拒否したりすると、結果として、子どもの創造の芽を摘むことになる。

とはいえ、学校における授業は、一定の時間と場所によって制限され、学級という集団を対象に、計画的、組織的に取り組まれるものであるから、個性を生かすということは、口でいう程容易ではない。

個性を生かす学習指導をすすめるためには、一人一人の習熟度などに応じる指導、つまり、指導の個別化と他方、一人一人のもつ個性そのものを伸ばす指導はどうあるべきかという二つの課題が考えられる。

さらに、授業過程において、子どもが示す特性や傾向性には、大別して認知的側面と情意的側面がある。両者は不可分なもので、相互に関連しながら働くものである。本研究では、後者をより基盤的な側面とみなし、子どもの性格・行動面にスポットを当てて、学習指導の在り方を模索してみたい。

個性をとらえる

子ども一人一人の個性とか特性とかは、日常の生活の中でも、また、教育の世界でもよく口にする言葉であるが、個性とはどのようにとらえればよいのであろうか。

辞書によれば、「個人に具わり、その個人を他の個人と異ならせる性格」とある。抽象的な定義としては、こういう説明となるのであろうが、日々子どもの指導に携わる教師は、どのように把握しているのであろうか。このような目的で、小・中学校9名の研究協力員により、クラスの子どもを対象に、観察による予備調査を行った。

小学校低学年を担任する研究協力員と中学校の研究協力員が、書き出した子ども一人一人の特徴を類別してまとめたのが、表1と表2である。これらの調査結果をみると、教師の子どものとらえ方に、いくつかの特徴がみられた。

小学校の特徴は、外に表れた目立ちやすい特性をとらえており、それらは、子どもの将来性を感じさせる「よさ」であることが多い。

表1　小学生

A	・いつもニコニコしている ・人にやさしく気配りする ・学校生活を楽しむ	・飼育がすき ・字がていねい ・気持をこめて音読
B	・気に入らないと乱暴 ・言いだしたらきかない ・悲しい歌がすき	・感情がストレート ・こだわる ・自己主張が強い
C	・遊びの名人 ・まわりを気にしない ・人気者	・砂遊びがすき ・ボール遊びがすき ・工作がすき
D	・指示待ち ・気が小さい ・おどおどしている	・人の助けで活動 ・はずかしがりや ・一人遊び
E	・お調子屋 ・笑いをつくる ・発言が多い	・歌や踊りがすき ・目立ちたがる
F	・最後までがんばる ・強い表現をする ・我慢強い	・全力投球する ・計算がすき ・声が大きい
G	・絵や作文がすき ・歌うのがすき ・豊かな表現をする	・想像することがすき ・お話をきくのがすき
H	・確実に仕事をする ・確認しながら作業する ・言われた通りにする	

中学校の特徴は、個性をプラスとマイナスの両面からとらえており、学級における人間関係、学習活動、クラブ活動など幅広い場面において、生活の行動として把握されている。子どもの発達段階からみて、当然のことであるが、中学校の子どもの個性の複合性と多様性が、より多く表現されている。

表2　中学生

A	・しっかり者でリーダーである ・ていねい確実な学習をする ・判断力、行動力にすぐれる
B	・温和で友だちを大切にする ・おとなしくてマイペースでがんばる ・奉仕精神があり、クラブもがんばる
C	・生意気なくせに情に弱い ・感受性に富み優しい心をもつ ・読解力にすぐれ、感情をこめて音読する
D	・芸術に関心、言葉づかいがていねい ・スポーツが得意で作業が早い ・生活態度はよくないが、数的処理にすぐれる
E	・クラブはがんばるが、学習は手抜き ・先生によって態度をかえる ・一人のときはよいが、集団で人が変わる
F	・傍観者 ・注意深く、納得するまできく ・ダジャレを言って目だちたがる
G	・独占欲が強く、友だちができない ・友だちがいないと登校拒否 ・自分のことはたなにあげ人を非難
H	・理解が抜群、難問に短気 ・注意深くきき、納得いくまで説明を求める ・まじめだが、融通がきかない
I	・深く考えず発言したがる ・失敗をくりかえし、注意されると神妙 ・平気で嘘をつく
J	・ふつうはボーッとしているが、みんなの前で大声 ・口先だけで、行動は伴わない ・いやな教科では落ちこむ
K	・何をされても無口 ・大人と平気で話すが、友だちにはダメ ・先生とは対等にやりあうが勉強は苦手
L	・やればできるが、必死にならない ・真面目だが、にえきらない

人を評して、「個性的だ」ということばを聞くと、独創的であるとか、ユニークであるなどのプラスの面を感じる場合と、人づきあいが悪い、頑固であるなどのマイナス面が感じられる場合がある。このように、人間の個性はとらえ方によって、また、生かし方によってプラスにもマイナスにもなるものではないだろうか。

子どもの個性を指導のしやすさ、指導のしにくさからではなく、人間の生きた総体としてとらえることの大切さを考えていきたい。

おわりに

学習活動といえば、学習速度や学習到達の程度など、認知的側面に力点が置かれてきたように思われる。

この度の共同研究においては、学習指導における情意的側面を重視し、子どもの興味・関心、さらには、性格・行動の特性あるいは学級における人間関係などに目を向けたい。これらが、子どもの学習活動のなかでどのように働いているか、また、そのような子どもの特性を学習指導に生かすには、教師はどのようにあるべきか探っていきたい。

(個性化教育共同研究グループ 指導主事 **西村達男**)

研究ノート　中学校教育

文章表現力に関する調査研究から

広島市教育センター指導主事　財　津　伸　子

作文が苦手な生徒がいる。この生徒の「苦手」の中味をとらえるには多くの視点が考えられる。本研究では、広島市立中学校第1、2、3学年259名を対象として、文章を書くことに対する意識を調査し、読書とのかかわりを探った。ここでは、読書量と文章に書く内容の取材とのかかわりについて述べる。

読書の実態

調査対象生徒の単行本の読書量は一人あたり月間平均1.27冊であった。これは全国的な調査結果(モノグラフ中学生の生活vol.25)とほぼ同じであった。単行本の月刊読書量を基準にして、A群（0冊の生徒)、B群（1～3冊の生徒)、C群（4冊以上）の3群に分け、それぞれの読書傾向をみると、単行本を多く読む群ほど漫画本や月刊雑誌、週刊雑誌をも多く読んでいる。

文章を書く時に困ること

図1は文章を書く時に最も困ることについて尋ねた結果である。三つの群とも「何を書くか（内容・取材)」が高い割合を占めている。しかし読書量が多い群ほどこの割合は下がり「まとまりのある文章にする、どんな題をつけるか（構成・展開)」が高くなっている。このことは、作文の学習過程でのつまずきの違いとなって現れることが予想される。

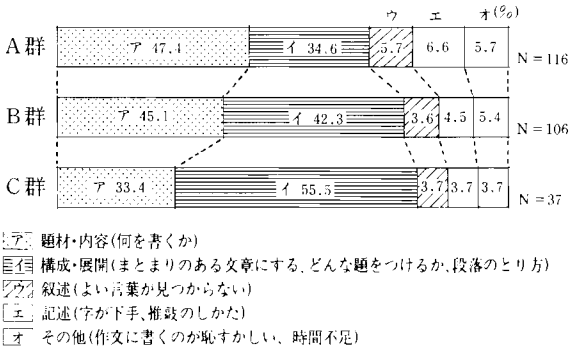


図1　作文を書く時に最も困ること

取材の傾向

「何を書くか」に困るのは、取材のしかたと深くかかわっている。取材した題材は群によって違いがあるのだろうか。写真を見て一定時間に多くの文を完成する文完成テストで取材傾向を調べた。図2はその作文例である。

	作　文　例　（　）は取材の範囲
A群	◦写真の空は青い色で白い雲も出ています。(写真) ◦　〃　〃　3人ほど人間かいます。(写真) ◦　〃　〃　人間の下には影が見えます。(写真) ◦　〃　〃　遠くには山が見えます。(写真)
B群	◦写真の空は青い色で絵の具でぬったようです。(連想したこと) ◦　〃　〃　どこまでも続いていきそうです。(連想したこと) ◦　〃　〃　かきごおりのシロップの色です。(連想したこと) ◦　〃　〃　雨は降りません。(連想したこと)
C群	◦写真の空は青い色でこんな明るい日にはゆっくりと散歩がしたい。(気持ち) ◦　〃　〃　見つめていると心が澄みわたるような。(気持ち) ◦　〃　〃　夏を感じさせます。(連想したこと) ◦　〃　〃　白い雲がよく映える。(写真に対する気持ち)

図2　文完成テスト作文例（第3学年）

A群は写真から詳しく取材し具体物を多くとりあげている。B群は題材数が多く、写真から多様に連想して書いている。C群は抽象的なものをとりあげ、写真を見た書き手の心の動きまで題材としている。読書量が多いほど取材の範囲が広く、「書く対象としてとらえる目」が豊かであることがうかがえる。

個を生かす作文指導

このようにみると、まず、作文力の素地づくりとして読書指導の大切さがわかる。また作文指導では、多くの文種を書かせることが生徒の学習意欲に結びつくことが感じられる。例えば、「電話」を題材とした時、A群は電話の色や形の説明文を書き易いと感じるであろう。B群は電話にまつわる逸話集や創作文を書き易く思うであろうし、C群は電話についての体験文や意見文を得意とするであろう。生徒一人一人の取材傾向を生かして年間指導計画が立てられ、作文の学習過程での個々のつまずきが焦点化して指導されることによって、作文の「苦手意識」は減ると考える。

＝教育相談室から＝

Q　おこたえします　A

登校拒否の生徒

Q　A君は中学校2年生の男子です。夏休み後、最初の2、3日来ただけで、その後登校しなくなりました。中間試験には何とか来れたのですが、それ以後は全く登校できません。理由を聞いても要領を得ないし、保護者の話では朝になると腹痛を訴えたり、起きようとしなかったりすることが多く、一日中、家にいてマンガを読んだり、テレビを見たりして過ごしているようです。今後どのようにしたらよいでしょうか。

A　A君の学校を休む理由がはっきりしないようです。このような時、とかく「わがままだ」とか「怠けだ」として、保護者に連れてくるように要請しがちです。しかし、これはかえって子どもの心を閉ざし、状況を悪化させることにもなりかねません。このような生徒は自立心が育っていないということがよく指摘されます。つまり、身体的に大きく成長するにもかかわらず、親などへの依存心が強く精神的に自立できないために学校生活に不適応を示し、家庭へ逃避しているわけです。

このような生徒に対しては自立心を育てることが最も重要な課題になってきます。そのためには次のような対応が必要です。

1　心理的な安定を図る

中間試験に登校したというのは、学習の遅れなども心配で、親の期待も裏切れないA君の苦しさが感じられます。しばらくの間、登校を促すような働きかけを控えて、まずはA君の気持ちを安定させましょう。また、学校に行けないつらさをわかってやり、不安や苦しみを共感的に理解する姿勢が必要です。

保護者に対しては、これまでの養育態度のまずさを指摘するのではなく、気持ちや悩みをじっくりと聴いてあげることで不安感を軽減することに力を入れます。親の心の安定が子の心の安定につながるからです。

2　自発的な行動を育成する

A君が心理的に安定してきたら、保護者に次のような対応が必要であることを理解してもらいます。

A君への保護者の対応として、まず、「～しなさい」というような指示・命令的な態度をやめて、子どもの主体性を尊重する姿勢をもつことが必要です。また、子どもの話にすぐ口をはさむのではなく、最後まで聴くというような受容的な態度で接することを心掛けてもらうことなどです。

3　家庭との連携を大切にする

家庭訪問などでA君との人間関係を作っていきます。その際、登校を促すようなことはせず、本人の興味・関心のあることを話題にするなどしてリラックスさせます。

本人が会いたがらないときは無理に会わず、保護者とだけでも話をします。そして、A君の状態が少しでも好転していれば、そのことを保護者に気付かせながら、保護者のあせりを少しでも和らげることが大切です。

以上のようなことが指導の基本になると思いますが、担任として責任を感じて一人でかかえてしまうのではなく、まわりの先生方に相談したり、相談機関との連携を図ったりして、対応を進めていくことが大切です。

広島市教育センター指導主事　**三原　裕隆**

広島市立学校教育研究生紹介

本年度は22名の先生方が9月から11月の3か月間、当教育センター及び在勤校において研究をされました。今回は、数学科に関する研究の概要を紹介します。

研究内容

コンピュータ学習ソフトの作成とその利用

広島市立矢野中学校教諭　中　研　司

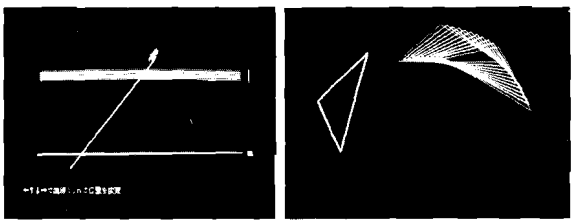
コンピュータの教育利用の在り方は、多方面で研究が推進されているが、授業で活用できる学習ソフトは、まだ十分とは言えない。

そこで、図等を動的に表示したり、条件設定等も状況に応じ自由にできるなどのコンピュータの特性を生かした学習ソフトを開発し指導方法の改善を図ろうとした。

1　学習ソフトの作成

学習ソフトは、「平行線の性質」「図形の回転移動」「三角形の合同条件を使った証明」等5本を作成した。なお、作成に当たっては次の点に留意した。

- 条件が自由に設定できること
- 変形、移動をいつでも止めたり、逆に戻したりできること
- 操作感覚があること
- 変形、移動の速さが適切であること
- 変化の軌跡や補助線を示すことが選択できること

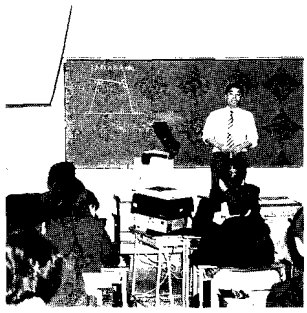


作成した学習ソフトの一画面

2　コンピュータを活用した授業

作成した学習ソフトの使用は、ＴＰや他の教具の活用と同様に位置づけ授業を展開した。指導に当たってはプレゼンテーション・ディスプレイ・パネルを利用して、ディスプレイ上の映像をスクリーンに拡大投影して活用した。

生徒は、図形が意図的に簡単に動くことに強い興味・関心を示し、集中して学習に取り組んだ。図形の変形、拡大、縮小、移動等が素早く、正確に表現できるため、図形に対するイメージを豊かにすることができたと考える。また、生徒の求めに応じ何回でも試行できるため、学習内容の理解を深めるうえでも効果的であったと考える。



しかし、ディスプレイ上はカラーの図形でもスクリーン上は、白黒の投影であったり、演示にしか活用できない等の制約があり残念であった。

3　まとめ

実験的な実践であったが、他の教具では不可能な動きや変形を伴う図形表示が可能となり、図形指導のねらいにせまる学習ができたと思う。今後とも、コンピュータの特性を生かした学習ソフトの作成に努めたい。

研究主題

国語科

「やまなし」の指導における到達目標の設定と指導の手だて

広島市立竹屋小学校教諭　望月　真

読解指導の過程における漢字指導の工夫

広島市立清和中学校教諭　佐々木　順子

社会科

児童に意欲的に取り組ませる授業展開について

広島市立久地南小学校教諭　小笠原　一志

数学科

コンピュータ学習ソフトの作成とその利用

広島市立矢野中学校教諭　中　研司

理科

地域の植物の教材化に関する研究

広島市立五日市小学校教諭　佐々木　治

対流現象をとらえさせるための実験装置の製作

広島市立戸坂小学校教諭　片山　巌

水溶液中のコロイドおよびイオンに関する教具の工夫

広島市立沼田高等学校教諭　難波　太

学習理解を深めるドリル学習の効果的な指導法の研究

広島市立安佐北高等学校教諭　野村真人

音楽科

主体的な音楽活動の仕方を身に付けさせるための合唱学習の在り方

広島市立日浦中学校教諭　松岡和紘

図画工作科

造形活動のスペースと造形思考

広島市立井口北小学校教諭　東條典子

保健体育科

姿勢と背筋力に関する研究

広島市立黄金山小学校教諭　大上正則

「わかる・できる授業」におけるグループ学習の研究

広島市立亀山小学校教諭　河野一則

技術・家庭科

電気回路学習の教材開発とその利用に関する研究

広島市立城山北中学校教諭　佐藤篤正

英語科

Notional-Functional Syllabus理論にもとづく教科書分析研究

広島市立安佐南中学校教諭　松山信治

道徳教育

自らをみつめる道徳指導の在り方

広島市立宇品東小学校教諭　荒木英明

特別活動

児童が意欲的に参加するスポーツ集会の指導法に関する研究

広島市立口田小学校教諭　藤本文恵

生徒指導

学級生活における「楽しさ」に関する研究

広島市立日浦小学校教諭　新内谷　敬

部活動を通しての生徒指導に関する研究

広島市立安佐中学校教諭　前田文清

障害児教育

日常生活動作の指導に関する研究

広島市立古田中学校教諭　山下加代子

教育課程

形成的評価を取り入れた授業研究

広島市立中野東小学校教諭　東　克幸

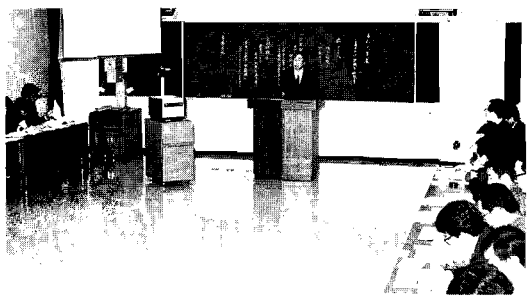
幼稚園教育

ことばを育てる教師の問いかけについての研究

広島市立北祇園幼稚園教諭　津賀早苗

生活習慣の指導に関する一考察

広島市立落合東幼稚園教諭　藤井幸子

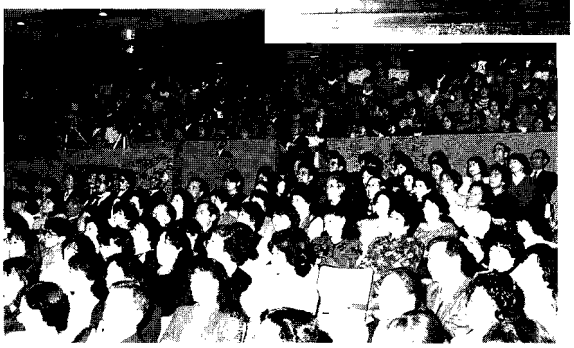


◀研究報告会

教育センターひろば

講座紹介

平成元年12月7日、作家の阿川弘之先生をお迎えし、広島市青少年センターで教養講座を開催しました。800名の方々が受講され、大好評でした。



展示コーナー

展示中の作品

絵画25点
彫刻4点
書　7点

本年度も市立学校等の美術・書写関係研究会に所属されている先生方の作品を館内に展示させていただいております。

また、広島市立小学校児童の作品も展示させていただいております。

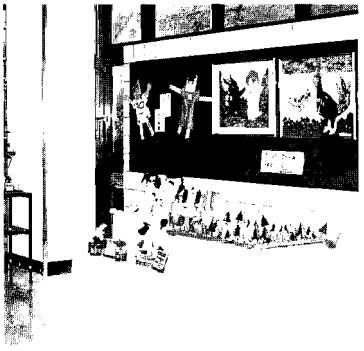
コンピュータ教育利用研究プロジェクト研究員

広島市教育センターでは、マイクロコンピュータ教育利用に関する研究をすすめるに当たって、次の方々に研究員をお願いしています。

プロジェクト研究員

	氏名	所属校	教科
小学校	亀宝悠二	広島市立原小学校	算数科
	甲斐清	広島市立牛田新町小学校	算数科
	光岡義治	広島市立矢野西小学校	理科
	中西博昭	広島市立山木小学校	理科
	木村照男	広島市立井口北小学校	理科
中学校	山本光信	広島市立高陽中学校	数学科
	藤井俊孝	広島市立五日市中学校	数学科
	桑原郁文	広島市立安西中学校	数学科
	松浦俊雄	広島市立美鈴が丘中学校	理科
	山口悦朗	広島市立亀崎中学校	理科
	竹本康明	広島市立安佐中学校	理科
	前田憲壮	広島市立国泰寺中学校	技術・家庭科
	岸業康成	広島市立大州中学校	技術・家庭科
高等学校	栗栖博昭	広島市立舟入高等学校	数学科
	角川忠憲	広島市立沼田高等学校	数学科
	宇田武正	広島市立基町高等学校	理科
	阿部修二	広島市立安佐北高等学校	理科
	藤岡哲	広島市立美鈴が丘高等学校	理科

研修コーナー



教育センター2階廊下に、研修講座等で製作した教材・教具を展示しています。研修等で来所の際にはごらんください。

題字　広島市立中野小学校長　世木田照彦

表紙絵　広島市立五日市観音中学校教頭　高藤　博行
～広島市現代美術館～
ヘンリー・ムーア（イギリス）作「アーチ」

編集後記

本年度最後の所報をお届けします。今回は、「個を生かす教育」について特集しました。教育実践に役立てていただければ幸いです。